

就労定着に心がけたいこと

山形県高次脳機能障がい者支援センター
医師 豊岡 志保

高次脳機能障がい者が就職、復職するためのハードルは高いものです。しかし、仕事を始めればそれで問題は解決というわけにはいきません。せっかく就職した方でも短期間で退職する方もいます。就労定着するにはどうすればよいのでしょうか。

当センターでは、コーディネーターが職場でのトラブルの相談を直接受けるほかに障害者職業センターなど他機関と連携をとっています。また、通所教室「暁才」に来て、指導スタッフや通所生に自分の仕事についてざっくばらんに話す機会があります。「暁才」には精神的なよりどころとしての役割があり、話していく中で自分の行動に気づきを得られ、一方、通所生にとっては同じような障がいの方の働く姿は励みになっています。

障がいが軽度であれば就労が継続しやすいわけではありません。見えにくい障がいである高次脳機能障がいの軽度な方は「元の職種にこだわる」、「障がいから回復していると思い込み、自分のできない量の作業まで引き受けてしまう」「ほかの障がい者雇用の人から孤立する」など重症の方とは異なり、継続支援から離れてしまう傾向がありました。

退職後に相談にいらっしゃる方もいますが、できれば就労の継続で悩んだときにセンターに来ていただくと、仕事をつらいと思っているわけ、職場に合わない理由を一緒に探すことができますし、職場の方に障がいを説明することもでき一つの方策となります。また、退職後は、いきなり一般企業に仕事を求めるのではなく、作業所や就労移行支援事業所から就労を開始して、生活リズムを整え、対人関係のスキルを高め、仕事内容を再度マッチングさせるのも大切です。

就労継続のためには職場では1. 出てきたトラブルを話し合う場を定期的に作る。2. 仕事に慣れてきても、新しい作業の追加は慎重に進める。3. 職場でメンターをつくり、メンターの交代時には、できれば当事者を交えて障がい特性について丁寧に申し送りを行うなどをこころがけていただきたいと思います。

山形県高次脳機能障がい者支援センターでは、発症後間もなくから、就労後定着まで時期に応じた相談支援を行っています。職場の方も当事者の方も、仕事を続けるのに困ったときにご相談ください。

山形県高次脳機能障がい者支援センターのご案内



新しい情報を覚えることが難しい、覚えてもすぐに忘れてしまう



注意を向けたり、集中することができない

病気の直前直後のことが思い出せない

ぼーっとしている

何事も自分から始めることができない

衝動的な行動、場にそぐわない発言を繰り返す

こんなことでお困りではありませんか？



物事を計画して実行することが難しい

意欲が持てない



感情や行動をコントロールすることができない

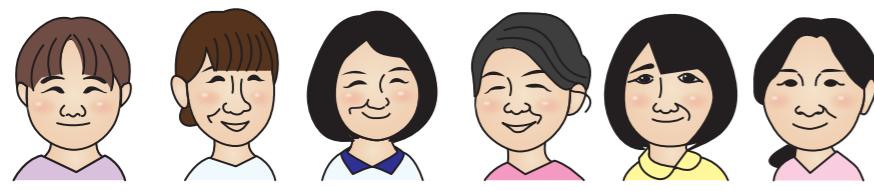
理論的に考えたり、問題を解決したり、推測することができない

このような症状は、高次脳機能障がいによるものかもしれません。

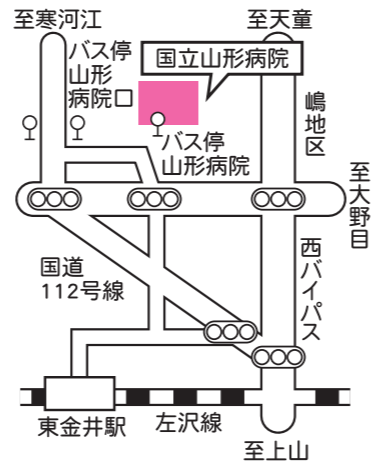
高次脳機能障がいとは①血管が切れたり、詰まったりする脳卒中や、②交通事故などにより脳が傷つけられたり、圧迫されたりする脳外傷、③脳が炎症を起こしたり、酸素が不足する脳炎や脳症などにより、脳が損傷し、言葉や記憶、計算、行為、空間認知など複雑な脳の機能に障がいが生じることです。社会生活への適応が困難となる障がいですが、その多くが退院後などに確認されます。また、手足の麻痺などと違い、一見どこも悪くないように見えるため、気づかれにくい場合が多く、本人の障がいの認識も薄いのが特徴です。

「もしかして高次脳機能障がいかも・・・」と思ったら お気軽に山形県高次脳機能障がい者支援センターをご利用ください。

- ☆まずはお電話やメールでご連絡ください。
コーディネーター（社会福祉士）がお話をお伺いします。
- ☆ご相談にはお時間をいただくことが多いので、時間に余裕をもってご連絡ください。また、きちんとお話を伺うため、来所相談は原則予約制です。
- ☆相談は無料です。



【お問い合わせ先】
山形県高次脳機能障がい者支援センター
月～金（祝日は除きます）8:30～17:00
TEL:023-681-3394 FAX:023-681-3134
E-mail:117-yama-koujinou1@mail.hosp.go.jp
〒990-0876 山形県山形市行才126番地2
独立行政法人国立病院機構山形病院内



(令和5年9月改訂)

事例

1

20代 男性

交通事故により、高次脳機能障がい、身体障がいが残存

困っていること

- ・財布を忘れたり、約束を忘れてしまう
- ・言葉が出にくく思っていることが言えない
- ・家族に強い口調で言ってしまったり、泣いてしまう



社会復帰のために

- ・通所教室の利用
- ・就労継続 B 型事業所の利用開始
- ・障がい者手帳取得



就労へ

障がい者手帳を取得することで障がい者枠での雇用が検討できるなどのメリットがあります。

こんな風に対応しています

- ・約束など忘れないために手帳を利用するようになりました。慣れるまで練習したけど、今では上手に使えています。
- ・伝えたいことは前もってリハーサルしています。
- ・家族に強く言ってしまった時は、あとで振り返りをしています。



事例

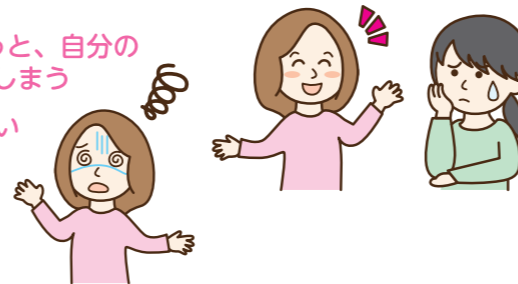
2

40代 女性

小脳出血により、高次脳機能障がいが残存

困っていること

- ・「話したい!」と思うと、自分のタイミングで話してしまう
- ・家族とうまく話せない
- ・ふらつき、めまいがあっても早く仕事したい



社会復帰のために

- ・障害者職業センターで職業評価を受ける
- ・障がい者手帳取得
- ・通所教室を利用しながら、就職活動を開始

就労へ

いくつかの面接を受けて仕事決定! ふらつき、めまいはあるけど、うまく付き合ってます。

こんな風に対応しています

- ・他の人と話したりして発散しています。
- ・通所教室のプログラムで障がい把握ができたことで自分なりの対処法が身につきました。

定着支援

- ・仕事の悩み
- ・仲間がほしい...

お話を傾聴しながら、継続して関わっています。

事例

3

30代 男性

低酸素脳症により、高次脳機能障がいが残存

困っていること

- ・意欲の低下などにより、家族の見守りが必要な状態
- ・状況理解ができない(病識がない)
- ・家族の理解も得られず、家庭での居場所がないと感じる



社会復帰のために

- ・通所教室の利用を継続。
- ・精神科デイケアも併用して利用し、生活の楽しみを見つけていった。
- ・家族の理解も得られるようになり、関係も改善。家庭内での役割も増えた。

就労へ

合同面接会へ参加し、実習につながった。何度も本人を交えながら会議を行い、ジョブコーチの利用もしながら、その後正式採用となった。

こんな風に対応しています

- ・様々な活動を通して自信を得て、新たなことにもチャレンジするようになりました。
- ・本人の思いは受け止めながら、本人が少しずつ変わっていったことで家族間での関係が改善していった。自分の話を聞いてもらうことで、気持ちがおちついてきました。家族ともうまく関わるできるようになりました。



社会復帰への施設のご案内

様々な事業所を同時にご利用いただくこともあります。

通所教室「暁才」

当センターに併設されており、若年の高次脳機能障がい者の社会的自立を目指し、社会復帰トレーニングを行っています。「5行日記」による記録のトレーニング、「障がいを知ろう・語ろう」による障がい理解の促し、また机上の訓練だけでは無くスポーツや音楽を取り入れながら活動しています。



通所教室の様子

就労継続 B 型事業所

通所しながら生活リズムを整えたり作業を通して就労の準備を行います。

精神科デイケア

精神科の通所リハビリの一種で、精神疾患を抱えている方が、社会復帰するための治療やリハビリを行うところです。

障害者職業センター

仕事をする上での適性や配慮が必要なことについて職業評価をしたり、ジョブコーチが職場に適應していくための支援を行います。

ハローワーク

ハローワークと連携しながら就職活動を支援しています。合同面接会への同行も行っています。

家族会「さくらんぼ」

定期的集まり、本人・家族の交流を行っています。詳しくは、当センターまでお問合せください。